

動物をリラックスさせるマッサージやブラッシングとは？

農食環境学群 / 循環農学類 / 人と動物の関係学研究室

山田 弘司

[Hiroshi Yamada] 教授 [博士(農学)、文学修士]



● 研究の概要

触られるのは、動物にとってストレスだという人もいます。一方、マッサージやブラッシングをいやがらない動物もいます。様々な動物に対して、さわり方を変え、また触る部位を変えて、動物の行動を調べて、喜ばせ、リラックスさせる方法を探しています。

● 研究の内容・特徴

動物をなでたり、触ったりすることはペット動物では当然のことで、そのとき嬉しそうにしていることも分かります。しかし、ペットだけでなく、ウシやウマといった家畜やラット、マウスといった実験動物でも、なでたりすることが、落ち着かせるのに効果的かもしれません。

ただ、どこを触っても、どんな触り方をしても良いわけではないかもしれません。このようなことをきちんと調べた研究はありません。

本研究では、ウマ、ウシ、ヒツジ、ヤギ、モルモット、ハムスターといったさまざまな動物でそのような効果を調べています。これらの動物をそろえるのに、近隣の農場や動物園にも協力してもらっていますが、多くは大学で飼育されているものです。

さまざまな部位を触り、その触り方もいろいろ試した結果、どの動物も好む部位がありそうだと分かってきました。今後は、血中のストレス物質を測定して分析を深めていきます。



写真1 ペットのモルモットの背中をマッサージ。不安が緩和される。



写真2 観光牧場のヤギでマッサージテスト。嫌がらず、おとなしくしている。



写真3 観光牧場のヒツジで顔の近くのマッサージテスト。

● 用途・応用例

- ・動物園のふれあい動物の適切な触り方
- ・家畜の世話の際のブラッシングの仕方
- ・犬や猫が治療を受けるときに落ち着かせるマッサージ法
- ・
- ・
- ・

● アピールポイント

動物福祉に役立つ研究で、伴侶動物から、家畜や動物園動物、実験動物にいたるまで、関係する研究です。簡単な手法で、大きな福祉効果をもたらす可能性があります。すでに動物園でふれあい動物を用いた共同実験を行っています。また、観光牧場で実験を行っています。実験手続きは、動物にストレスを与えず、むしろ快適にするものです。

● 本研究に関連する知的財産

発明の名称：

特許番号：

● 研究室のホームページ